

P.U.P. News

VOL. 6

2018年11月30日(金)発行

発行元：進路指導部

誘惑に負けるな！ (生徒諸君へ)

生徒の皆さん文化祭は楽しみましたか？高校3年生は最後の文化祭だったので感慨深かったでしょう。受験生からしたら「受験勉強でそれどころじゃない」の声がちらほら聞こえてきます。でも、最後の高校2年生のエイサーは音が大きく響いて、迫力ある演舞でしたね。自分へのエールだと思いきり替えて、自分の道を真っ直ぐ進んでください。第4回定期テストもあと10日後です。自分のやるべきことはしっかり計画を立ててやりましょう。テレビやスマホ、誘惑がいっぱいの中、どれだけ我慢をし、目標に向かって頑張れるか。隣にいる人はみんなライバルだと思い、見えない所で差をつけよう！今回は受験校決定のポイントについて紹介します。特に私立大を考えている受験生は、併願校で腕試しを考えてみてはどうでしょうか。

センター試験

☆ 頭の中が真っ白になったとき そこから抜け出す方法 ☆

試験中にパニック状態になった場合の対処法について考えます。よく、緊張で頭の中が真っ白になって、試験問題に手がつけられなかったという話を聞きます。これは脳の中で、「周辺抑制」というメカニズムが働いているためです。周辺抑制は、脳が必要だと考える情報を抽出するために周りの情報の想起を抑制する機能で、たくさんある情報の中から必要な情報だけを浮かび上げることができます。試験の場合は、できなかったときのことに意識が集中してしまい、目の前の試験問題に関する情報が抑制されている状態になってしまうのです。人の名前など何かを思い出そうとすると余計に思い出せなくなるのも同じです。受験生はこうした場合に落ち着くための方法を持つておくことが大切です。対処法としては、意識を他へ向けることによって、抑制を取ることが有効です。具体的には、別の問題から先に解くといった方法が一般的ですが、答案用紙の名前を書き直したり、答案用紙に記入した受験番号をもう一度確認したりすることもお勧めです。こうして、意識を少し動かすことによって、周辺情報を手繰りながら、勉強したことを少しずつ思い出せば落ち着きを取り戻すことができるでしょう。

〈名古屋大学環境医学研究所・脳機能分野教授 澤田 誠 より〉



第1志望校が決まり、目標に向かって頑張っている頃だと思いますが、併願校の検討はできていますか？ Kei-Net 特派員にアンケートを実施したところ、3～5校受験したという特派員が全体の約半数でした。第1志望校より先に併願校を受験することで、入試独特の緊張感に慣れておくことができますし、1校でも「合格」を手にすることで気持ちに余裕が生まれ、落ち着いて第1志望校の入試を迎えることができます。このように、「保険」という意味だけでなく、第1志望校の入試で十分に実力を発揮するためにも、併願校はしっかり検討しておく必要があります。

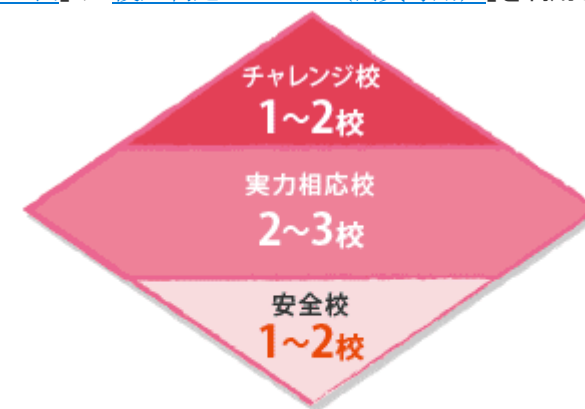
Point 1 受験校を決めよう

はじめに併願する受験校を決めましょう。併願校を決める際は、教育分野や大学の雰囲気、立地条件、進路・進学状況はもちろんのこと、入試の難易度や入試科目についても考慮しなければなりません。

KEY ① 難易度 “ダイヤモンド受験”が合格の鍵！

「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」という言葉がありますが、大学入試においてこの言葉は通用しません。入試の出題傾向は大学ごとに異なるため、大学別に対策を行う必要があります。さらに受験には体力も費用もかかります。受験校数はある程度絞り、一つひとつの入試に全力を注げるようにしましょう。

その際に目安となるのが、“**ダイヤモンド受験**”です。チャレンジ校1～2校、実力相応校2～3校、安全校1～2校、計4～6校を目安に検討してみましょう。各大学の入試難易度や合格可能性判定の確認には、「[入試難易予想ランキング表](#)」や「[模試判定システム\(会員専用\)](#)」を利用してください。



チャレンジ校: あこがれの大学、どうしても受験したい大学
 実力相応校: 自分の成績から見て妥当な大学
 安全校: 過去受験したほとんどの模試でA判定の大学

KEY② 入試科目・配点 “賢い受験”が合格の鍵!



大学受験で大切なことは、目標を見失わないことです。今まで行ってきた受験勉強はすべて、第1志望校に合格するための努力です。できればその努力が最大限に活かせることを併願校にできるといいですね。

入試科目が第1志望校と大きく異なると、併願校の対策に時間を取られ、第1志望校の対策に支障をきたしかねません。併願校には第1志望校の入試科目を利用して受験できる大学・入試方式を検討しましょう。その際、自分の得意科目の配点が高い入試方式がないかあわせて確認しておきましょう。

私立大学では、センター試験の成績を利用できる「センター利用方式」や1度の受験で複数の学科に出願できる方式などさまざまな入試制度があります。その中からもっとも自分にあうものを選びましょう。

最近では、複数の方式を受験する人や、インターネットを利用して出願(ネット出願)した人を対象に検定料の割引制度を設ける大学があります。志望校でもこうした制度が設けられていれば上手に活用しましょう。

科目をそろえて負担は小さく、得意科目の配点は高く、受験料はなるべく抑える。“賢い”受験が第1志望校合格につながります!

Point 2 受験スケジュールを立てよう

大まかな受験校が決まったら受験スケジュールを立てましょう。ここでのKEY WORDは「連続受験」と「受験順」です。

KEY③ 連続受験 “3日まで”が合格の鍵!



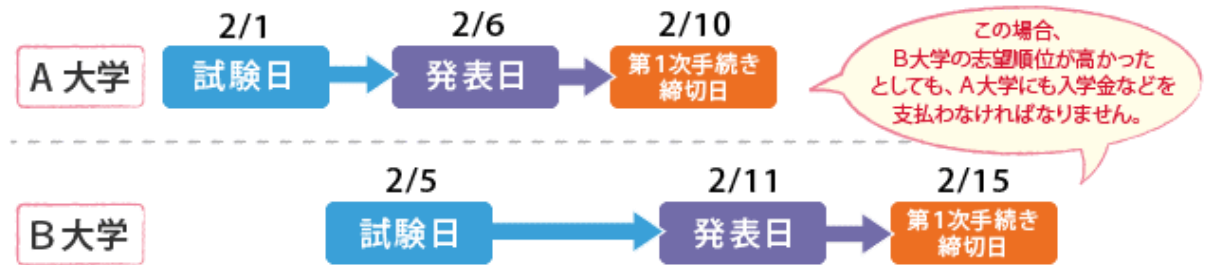
本番の入試は予想以上に体力を使います。模擬試験を受験した日にどっと疲れが出た経験はありませんか? 本番の入試では、模試以上に緊張し、疲れもたまるはず。連続受験はできるだけ避けましょう。どうしても志望校の試験日が重なってしまう場合でも最大“3日”までに留めましょう。また、地元での受験ができない場合は、移動時間などを考慮に入れて余裕のある日程を組む必要があります。本学以外で受験できる地方試験を実施している大学も多くありますので、積極的に利用して、受験に伴う移動や宿泊はできるだけ減らしましょう。

KEY④ 受験順 “右肩上がり”が合格の鍵!



“初めての入試”は誰でも緊張し実力を発揮できないことがあります。“初めての入試”が第1志望校とならないように受験スケジュールを立てましょう。このとき入試難易度が“右肩上がり”になるのが理想です。安全校→実力相応校→チャレンジ校の順に受験できるとよいでしょう。

また、受験スケジュールを立てる際に、合格発表日と第一次手続き締切日の関係にも注意が必要です。大学に合格すると第一次手続き締切日までに、入学金を納めなければ入学資格を失います。その多くの場合、入学金(20~30万円)は入学を辞退しても返金されません。志望順位の低い大学の手続き締切日が、志望順位の高い大学の合格発表日より前の場合、余分な入学金を納める事態が起こります。なるべく無駄な出費が抑えられるよう、受験スケジュールを立てましょう。



たくさん合格をもらっても、通える大学は一つ。納得の行く大学選びをしましょう!

<kei-net より>

【キャンパスと地域の仕切りを外す】

1月17日進路講演会で、琉球大学人文社会学部准教授『野入 直美』先生をお招き、先生の行うフィールドワークや、大学生に行う講義の多様さを紹介していただき、また、2020年度より行われる新入試における琉球大学の動向、それに伴い受験生に求められるものをお話しされました。最後の質問コーナーでは、たくさんの生徒さんが質問をし、野入先生は京都府出身の関西人らしい返しで笑いをとりながら真面目に受け答えていました。「黄色ちゃんが黄色さに気づくのは」のお話では、多様な見方、その場所に実際に行くなどをし、初めて気づかされることを学びました。生徒を巻き込んだ考えさせられる充実した進路講演会でした。



12月の模擬試験

前回の第3回定期考査であまり結果がでなかった生徒は、原因を追究し、第4回定期考査で挽回しよう。各教科の目標点などを作り、達成できるように計画的に勉強すること。高校3年生は体調管理に気を付けて、センター試験苦手分野をなくすことも大切ですが、得意分野の点数を落とさないように対策しましょう。

- ・12月10日(月)~12月13日(木) 第4回定期考査・卒業認定試験
- ・12月22日(土) 希望者 <<高校3年生対象>> センターファイナル模試

☆12月24日(月)~12月28日(金) 冬期講習

